

● 視察ダイアリー

2月4日(月)

朝7:25伊丹空港にもっとも近い私が一番遅く到着(反省)
テレビ朝日他報道が待ち受けている。すでに皆さん搭乗手続きを済まされているものの、インフルエンザの疑い濃厚な床田議員が 39℃の熱のため、出発を逡巡されていた。もしインフルエンザなら搭乗禁止。本人の全身状態から見て機内感染の可能性が高いと判断。急遽、とりやめになり、一行は8名に。(後日談:インフルエンザで一週間苦しんだとのこと。決断正解。)

成田から12:00発、約 12 時間半かけてニューヨークへ。
現地時間 10:25AM 着。小雪舞い散る初めてのニューヨークは寒い！時間待ちの間、ダウントウンにあるワールドトレードセンター跡地“グラウンド・ゼロ”へ。すでに金網の中は槌音が響き、復興への兆しははっきりと感じられるものの、爪痕の凄さに絶句。写真を撮るのもひんしゆくではないかなという思いがするほどだった。無差別テロは許せない！でも世界のどこかで今日も起こっているかもしれない・・・

到着当日、スケジュールの関係で昼食抜きにて視察をこなす。時差ボケもほとんど感じず、ハードな日程(視察報告に詳細)だが元気に初日を終える。



● 豆知識

華氏から摂氏への変換
(華氏-32)÷2=摂氏
これは憶えておくと便利！

2月5日(火)



午前中のみ自由行動。N.Y 在住 30 年の友人と連絡が取れて再会。9.11 のことなどや子育て事情を聞く。地下鉄メロを乗り継いで結構移動する。少し前までは危険で女性が一人でメロには乗れなかったそうだが、全く安全な乗り物と変っていた。ニューヨーカーはよく歩く。

後で聞いたのだが、この日は N.Y のフットボール

チームが優勝したパレードで地上は立錐の余地なく全

く歩けなかったそうだ。右の写真はバス停。大阪市で試験導入されたフランスの MC ドウコウ社の様式とほとんど同じ。マンハッタン島内は車優先で、歩行者は信号をほとんど守らないのにビックリ！

午後からも夜遅くまで視察 4 ヲ所でみっちり勉強する。
(視察報告に詳細)

● 豆知識

南北は avenue(街) 1block は約 1 分
東西は street(丁目) 1block は約 3 分



2月6日(水)

昨夜の私立の保育施設視察は突然我々の意向で入れたものだったので、就寝時間が遅く、朝7時10分出発はきつかった・・・AMTRAK (アムトラック)って鉄道だったのかあと思ったのは私だけ？大陸級の駅、そして車両を初体験。フィラデルフィア駅などを通過して一路ワシントンへ南下。



睡眠不足かはたまた時差がそろそろ応えだしたか、凄い頭痛。2時間余りの移動中で良かった(-_-;)

N.Y のグランドセントラル駅もそうだが、“エキナカ”(駅構内にあるショップやレストランなど)が半端じゃない。空間の大きさも違うけど、時間待ちも苦にならないほどの趣向があっっておもしろい。

子どもの頃からの憧れのワシントン D.C・・・まさか仕事で来るとは思っていなかった。N.Y には空がないとよく言われているが、ワシントンには建築物の高さ制限(モニュメントタワー以上の高さは禁止)があり、想像通り整然とした風格ある町並み。この日は異常気象で24℃ほどあり、汗をかくほどの陽気の中で日程を精力的にこなす。でもやはり昼食抜き・・・非人道的な強行軍だが一行全員元気そのもの。



ウィラード・ホテルという岩倉使節団が滞在したことでも有名な歴史あるホテルで時間待ち。通訳さんの話では日本人観光客はあまりワシントン D.C には来ないそうだ。大使館の方々も自治体の視察は非常に少ないと仰っていた。不思議だ。

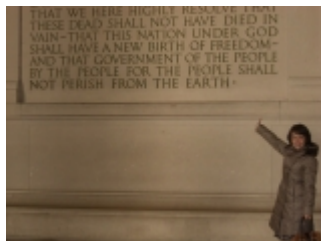
● 豆知識

第28代 Wilson 大統領はヘビースモーカーでよくこのホテルのロビーに煙草を吸いに来ていた。そのため、各界の人たちが大統領に会いにこのホテルのロビーに集まるようになったのが“ロビーイスト”の語源だそうです。

この夜、泊まったホテルでファイアーアラームがなり響き、取るもの取り敢えず非常階段から外へ。誤報と分かり戻れたが、厳戒態勢のワシントンでは日常茶飯事らしい。災害対策部会のオプションか・・・と何もなかったから言える冗談。

2月7日(木)

昨日とは、うって変わって寒い。午後からのブラジルへの移動も考え、薄着の一行。昨日も視察に明け暮れたため、航空機の時間待ちの午前中を利用してホワイトハウスなどやケネディ記念館、スミソニアン博物館群の一つや、昨日大使館で聞いたケネディセンターの「ジャパンカルチャー展」などを急遽視察するため駆け足で廻る。



OF THE PEOPLE BY THE PEOPLE FOR THE PEOPLE

の文字が刻まれた記念館内の碑。PEOPLE を CITIZENS に置き換えればそのまま私達の使命に！！



日本文化のハイパー部門はやはりロボット！黄色いのはおなじみですが、後ろの着物のお嬢さんは表情筋まで動かせる精巧なロボット。センサーによって会話が成立します。

午後3時25分に N.Y 着後、N.Y 発7時30分サンパウロへ。8時間半かかる。今回の視察は眠れるときに眠り、食べられるときにしっかり食べておかないと、スケジュールはしばしば延長され、睡眠時間・食事時間をけずられる事を学習したので、空路の移動はとにかくよく眠りよく食べた。何食節約しただろう。何泊節約するのだろうか……

2月8日(金)

N.Y とサンパウロの時差は2時間だが、サマータイムのため現在時差3時間。朝到着時からブラジルの首都ブラジリア大使館二等書記官酒井氏(貝塚市出身)が10日までの間、同行して下さることに。歓迎昼食会も視察をはさんでの歓迎夕食会も日系の方は本当にパワフルによく喋られる。やはり、地球の裏側から来た文字通り“遠来の友”を心から歓迎してくださっているのがよく分かる。

議会や市役所(外国では別々の建物の場合が多い。)などで表敬訪問や面談・意見交換などが続き濃密な一日を過ごす。



サンパウロ市長さんから招待を受け、23:00PM から始まるブラジル日本移民 100 周年記念式典会場(サンボドロモ)にてサンバカーニバル上位入賞者のエキジビションパレードを観る事に。白バイならぬ黄バイの先導で、特別に会場までバスで入場。整然としたパレード風景は意外なほど。しかしやはりラテンの民族。会場の観客もみんなリズムを刻んで踊っている。我々も日系の姉妹都市委員会から贈られたおそろいのT-シャツを着て午前3時過ぎまで会場に……ホテルに帰って 4:00AM。明日の集合 9:00AM！今日サンパウロに着いて連続何時間起きていたのだろうか？



2月9日(土)

睡眠不足のわりに元気いっぱい郊外のピラシカバ市へ。バイオエタノールの原料サトウキビ畑へ。雨傘を日傘にしなければならないほどの陽射し。見渡す限りの畑。規模が違う。大学の講義も久しぶりだが、休日のため学生さんがいなくて残念。一番見たかった工場も雨期のため稼働停止中で見られず……



● 豆知識

一本のサトウキビは年に1回折って収穫。折ったところからまた生える。6回ぐらい繰り返すことが可能。5月～9月に収穫。
砂糖にするかアルコール燃料にするかはどちらかに決めなくてはいけないとのこと。



サンパウロ市内へ戻り、「日伯・友情の森」プロジェクトの一環でブラジル移民100周年記念事業として展開されている「21世紀の森作り」キャンペーンとして記念植樹。アロエに似た植物らしいが、育ってくれますように！この植樹も翌日の『ニッケイ新聞』に掲載された。



2月10日(日)



この日はいよいよ“なにわ会”との交流。朝から視察をこなした後、市内にあるなにわ会館へ。ざっと100名くらいの大阪府出身者の拍手による熱烈歓迎を受け、感激した。きのうの夕食に続いてこのときもシラスコ料理(ー;)でも日系のご婦人方に、いろいろな日常生活のことなどを伺うことができた。高齢の方が多いが、牛肉を事も無げに平らげ、豆や野菜、果物など農産物が安くて豊富にあるので食生活は豊かな様子だ。若い人も混じって

いて、青年部はほとんど3世であるが日本語教育はどうなっているのだろうか。ましてや四季のはっきりした日本と違い亜熱帯に生まれ育った彼らの、日本人としてのアイデンティティーはどのように形成されるのだろうか。他民族の混血も進む中、日本へ帰国した事のある2世たちの世代は、現在の日本を見てどういう風に感じたのだろうか。

またここ数年増え続ける逆移民現象とも言われる日本への出稼ぎの背景は何かなのだろうか。



● 豆知識

日本出稼ぎの条件

- ① 日系であること
- ② 3世までには特別査証(ビザ)
- ③ 身元・身分保証
 - * 日本人と同じ条件で働ける。
 - * 静岡・埼玉・群馬などに多い

2月11日(月)

さて強行日程のこの最終段階で、クリチバ市への「日帰り視察」!

7:30AM 集合して 10:10AM サンパウロから国内線にて一路クリチバへ。

11:05AM クリチバ着。見たい聞きたいことがてんこ盛りだが、滞在時間は約8時間あまり。街の印象もサンパウロとはまた違う。もう一日時間が欲しい!だが、4ヶ所の視察を精力的にこなせた



のは3日続いたシラスコ料理のおかげか・・・体がブラジルに順化してきているのを感じる。

19:25PM サンパウロへ戻り、国際線へ移動。9時間35分かけてN.Yへ。機内泊してここでも宿泊代を節約。

2月12日(火)・13日(水)

N.Yへは早朝到着しそのまま一路成田へ。約14時間10分、当然機内泊。合計すると帰路26時間15分のフライトを終え、伊丹に着いたのが17:50PM。疲れがないといえば嘘になるが、早速明日から予定がびっしり入っているお陰で気が張っている。強烈なインフルエンザでご一緒できなかった床田議員ら数名が空港まで出迎えてくれた。

● 感想

この視察は6泊10日(ホテル泊:機内泊=6:3)半分を空の上で睡眠、9回飛行機を乗り降りもした。極寒のN.Yから真夏のブラジルへ移動しての体力だけが勝負という強行スケジュール。たくさんの人に出会い、お話をし、助けてもらいながらの濃密な10日間。誰一人怪我也も病気もせず、体調を崩す暇もなくあっという間の出来事であったと思う。団長を中心に8名の議員と2名の随行員が文字通り団結して乗り切った、再開後はじめての海外視察。

出発後に報道されたと家族から聞かされた、公費での海外視察が「是か非か」については市民の判断に委ねられるが、少なくとも市長の親書を携え、議会から正式に派遣された一行は胸をはって任務を全うした充実感でいっぱいである。

全員が提出した視察報告を全部読むのは骨が折れるかもしれないが、8通りの報告書がきっとできるに違いないと確信する。今後はこの経験と知識をどのような形で市政に、施策立案に役立てて行くかである。直接ではなくとも間接的にも外国の全く違った発想や仕組みが、大いなるヒントになってくれることであろう。それは、書物やWEB上で得られる知識ではなく、我々が肌で感じた外国の生の経験であるからだ。

国際理解を机上では論じ得ない。その地に立ち、その空気を吸い、その地の食べ物を食べることにより分かることがたくさんある。

大統領選挙の真っ只中、メガ・チューズデイにN.Yの投票場を経験し、移民100周年に沸くサンパウロの日系人と多く語り合った。観光はほとんど全くと言っていいほどできなかったが、数え切れないほど出会った人と人の会話の中にその国の世相なりお国柄なり問題点が浮き彫りにされていたと思う。それを私が感じたままに書き綴ったのがこの**ダイアリー**である。さらに帰国後、視察全体を振り返って、私なりのフォーカスを当てて市政に反映できるのではないかという切り口でまとめたのが、次の**雑感レポート**である。